



シリーズ 阿久比を歩く ⑭



脇障子の左部分

あぐいぶらり旅 建造物を見る(縣神社「脇障子」)

立春、バレンタインデーを過ぎ、少しずつ春の気配を感じる時季となってきた。花粉の飛び散る量が昨年と比べものにならないほど多いらしい。春を先取りする私の目の周りはずでにかゆい。そんな春の到来を感じながら、福住地区の縣神社を友人と二人で訪ね、本殿の脇障子を見た。

縣神社は小高い丘の上に建つ。昨年の十月、二十年に一度の遷宮奉祝

立春、バレンタインデーを過ぎ、少しずつ春の気配を感じる時季となってきた。花粉の飛び散る量が昨年と比べものにならないほど多いらしい。春を先取りする私の目の周りはずでにかゆい。そんな春の到来を感じながら、福住地区の縣神社を友人と二人で訪ね、本殿の脇障子を見た。

この神社は尾張開拓の祖神とされる大縣主命などをまつる福住地区の氏神。「二ノ宮大明神」として明暦四(一六五八)年創建と記録が残る。社室は「かわずの面」と呼ばれる「翁の面」。雨乞いの神事に使われ、恵みの雨をもたらしたという。拜殿正面につり下げられた直径三十センチほどの鈴を鳴らし、頭を下げ、奥の本殿へと回る。大正十五年に改築された本殿はずっしりと重厚感がある。木鼻や虹梁などに裝飾されたきめ細かな彫刻が質感を高める。階段上の左右に分かれる縁の先は「脇障子」と呼ばれる聞きなれない建具。行き止まりの場所に置かれ、ついたてのようにさえぎるものを意味する。

脇障子にも、左右ともに「獅子」の彫刻が施される。作者は不詳。獅子の子落とし 自分の子に苦



縣神社本殿

難の道を歩ませて鍛えることの例え。彫刻は、まさにその場面が描写される。滝に落ちた子獅子をがけの上から親獅子が眺める。

「僕はこのような場面手塚治虫さんのアニメ『新ジャングル大帝』で見ましたよ」と友人。「僕は『巨人の星』だったかなあ。子どものころに見たアニメの話で盛り上がる。

背景には渦巻き状のものが散らばる。「あの渦何だろうね?」と私が首をかき上げる。「唐獅子と言え、牡丹じゃないですか。なるほど!」。獅子に牡丹。取り合わせのよいものを例えるときに使う表現だ。友人の言葉から、渦は雲にも見えるが「牡丹」の花にも見える。

「障子がこんな場所で使われるのはなぜだろう?」「脇が甘いと、神様が逃げちゃうからじゃあないですか」。友人の説得力のある、脇障子の推測にうなずいた。